



SDGs

全国フォーラム2024 沖縄

開催レポート

- 開催日 : 2024年12月21日（土）
- 開催時間 : 10:00～17:00
- 会場 : 沖縄県市町村自治会館 2階ホール
- 展示会場 : 沖縄県市町村自治会館 ホワイエ、2階会議室
- 参加者数 : 来場 206名 / オンライン 延べ160名
- 主催 : 沖縄県
内閣府、外務省、環境省、経済産業省、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム、国連広報センター、国際連合地域開発センター（UNCRD）、
- 後援 : （一社）日本経済団体連合会、（一社）SDGs市民ネットワーク、（一社）グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン、全国知事会、全国市長会、全国町村会、恩納村、石垣市
メディアパートナー／沖縄タイムス社、琉球新報社、株式会社宮古毎日新聞社、宮古新報、株式会社八重山毎日新聞、八重山日報社、NHK沖縄放送局、琉球放送株式会社、琉球朝日放送株式会社、沖縄テレビ放送株式会社、株式会社ラジオ沖縄、株式会社エフエム沖縄

オープニングセレモニー

10:00～10:15

沖縄県立南風原高等学校 郷土芸能部



SDGs全国フォーラム2024沖縄のオープニングは、南風原高校郷土芸能部により郷土芸能演舞が披露されました。

幕開けは琉球舞踊「四ツ竹」。美しい花笠と鮮やかな紅型を身にまとい、カチカチと四ツ竹を鳴らして踊り、今日の舞台の喜びを表現しました。

続いての「エイサー」は力強い地謡の音で演舞披露しました。エイサーは本来、旧盆の時に踊る念仏踊りとして知られていますが、最近では地域の青年会や創作エイサー団体によって、様々なイベントでも踊られるようになっています。

その後の演舞は「獅子舞」、そしてフィナーレで「豊年」（踊りとエイサー）を披露しました。獅子が舞うことで厄を払い、続いての踊りとエイサーで本日のフォーラムが盛大に行われることの喜びを表現しています。

開会セレモニー

10:20～10:50

01 主催者挨拶

玉城 デニー 沖縄県知事



はいさい ぐすーよー ちゅーがなびら。

皆様、こんにちは。沖縄県知事の玉城デニーです。

沖縄県では、バックカスティングの考え方に基づき「沖縄21世紀ビジョン」を策定しており、その基本理念や将来像はSDGsと多くの部分で重なっております。2021年には、SDGs未来都市及び自治体SDGsモデル事業に選定され、誰一人取り残さない持続可能な「沖縄らしいSDGs」の実現に向けて取り組んでいるところです。

本日のフォーラムでは、国内外のSDGsの方向性やポストSDGsに向けた議論を行い、皆様とともにSDGsの今後の方向性を一緒に考え、持続可能な社会の実現に向けた具体的な行動やパートナーシップの形成につながる機会となることを期待いたします。

いっぺーにふえーでーびたん。ありがとうございました。

02 メッセージ

宮路 拓馬 氏 外務省 外務副大臣



皆様、こんにちは。本日は「SDGs全国フォーラム2024沖縄」が開催されますことをお慶び申し上げます。

SDGsが採択されてから9年、日本政府は官民一体となってSDGsを推進してきました。SDGsの理念は我が国がより良い持続可能な発展を実現する原動力となりつつあります。これは、地方自治体や企業、NPO、ユース世代など多くの関係者がSDGsの推進に取り組んできた結果です。

地方におけるSDGsの浸透は我が国の大きな特徴です。沖縄県は太平洋・島サミットを開催し、持続可能な海洋の議論に先鞭をつけました。また、沖縄科学技術大学院大学が設立され、世界の研究者がSDGs推進に貢献されています。沖縄電力は可倒式風力発電を提供し、世界の小島嶼

国がこの技術に関心を示しています。

さらに、サンゴと人にやさしい持続可能な村づくりを掲げる恩納村、石垣市の自然と文化で創る未来を掲げた石垣市、誰一人取り残さない持続可能な「沖縄らしさ」の実現を進めた沖縄県がそれぞれ「SDGs未来都市」に選定されました。

本フォーラムを通じて、全国の地方自治体を含む多様なステークホルダーが連携し、SDGs達成に向けた取り組みがさらに促進されることを期待しています。政府としても引き続き、強い決意を持って様々な分野の関係者と連携し、オール・ジャパンでSDGs達成に向けた取り組みを強化してまいります。

李 軍華（Li Junhua）氏 国際連合 経済社会局 経済社会問題担当事務次長



皆様、こんにちは。SDGsに特化した日本最大級のフォーラムである「SDGs全国フォーラム2024沖縄」でご挨拶できることを光栄に思います。

まず、日本政府と関係者の皆様が国連地域開発センター（UNCRD）と連携し、SDGsの取組を進めてこられたことに賛辞を贈ります。皆様の尽力により、SDGsの認知度は著しく向上し、世界共通の行動規範として受け入れられてきています。

しかし、「持続可能な開発目標（SDGs）報告2024」によると、2030年の達成に向けて軌道に乗っているターゲットはわずか17%とされています。SDGsのターゲットの65%が

その責務に結びつく地方自治体レベルでのSDGs実施の加速化が急務です。また、未来サミットが重要な節目を迎え、SDGsの実施を加速化させるための主要な分野を網羅した「未来のための協定」が採択されました。

2030アジェンダとSDGsを達成するためには、すべての関係者の協力が不可欠です。2025年10月に愛知県豊田市で開催される2025国際首長フォーラムは、パートナーシップの構築等の機会を提供します。

本フォーラムでの議論が、新たなパートナーシップの構築と成果の創出に貢献することを確認しています。

根本 かおる 氏 国連広報センター所長



皆様、こんにちは。国連広報センターの根本かおるです。

SDGs全国フォーラムが沖縄で開催されることを心からお慶び申し上げます。

沖縄の皆様がSDGsを自分ごととして実践している姿に感銘を受けています。また、沖縄県のジェンダー平等の目標として、女性委員の割合を40%以上にする目標を掲げ、実際にその割合が増加していることは素晴らしいことだと思います。

さて、世界の現状を見てみますと、ロシアのウクライナ侵攻など、紛争が続いており、2023年は武力紛争による民間人の死傷者が2022年より増加しています。

気候危機も対策を上回る速度で進んでおり、深刻化しています。沖縄でも、海水温の上昇によるサンゴの白化や大型台風の頻発が問題となっています。

AIをはじめとする技術革新も進んでいますが、途上国の多くはその恩恵を受けられていません。生成AIの進化は多くの可能性を秘めていますが、偽情報に蔓延や戦争の戦い方まで変えてしまっています。

フォーラムの本題であるSDGsは、今年から実施の後半戦に入っていますが、順調に進んでいるターゲットは全体の

17%しかありません。

紛争、気候危機、生活費の高騰などが影響し、世界は新型コロナウイルス感染症のパンデミックが引き起こした不平等の拡大から未だ回復できていません。最も貧しい国々の多くはコロナ以前よりも困窮している一方で、世界の富豪の資産は増加しています。

そういった状況の中、国連は今年9月に未来サミットを開催し、未来のための協定とグローバルデジタルコンパクト、将来世代に関する宣言を採択しました。これは、SDGsの推進とともに安保理改革、国際金融アーキテクチャーの改革、AIのグローバルガバナンスを含め、国連を中心とする多国間主義を21世紀型にアップデートする者です。日本も安保理改革に向けてリーダーシップを発揮し、国際社会の課題解決に貢献していくことが期待されています。

来年は終戦、そして国連設立から80周年という重要な節目です。これまでの歴史を踏まえつつ、どのような未来を作っていきたいのか全国の多くの関係者の皆様の間で対話が広がっていくことを願っています。



セッション 1 国内外の SDGs の方向とポストSDGs に向けて

11:00~12:40

現在のSDGsの状況や、これからのSDGs推進の方向性、国連未来サミットを受けた取組、平和とSDGsの繋がり等について、国際社会、国、地方自治体、市民団体のそれぞれの目線から考えるプログラムを実施しました。

01 基調講演

蟹江 憲史 氏 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授



本日はこの「SDGs全国フォーラム2024沖縄」にお招きいただき、心より感謝申し上げます。このフォーラムは、地域に根ざしたSDGsの取り組みを考え、グローバルな課題をどうローカルに落とし込むかを探る重要な場だと考えています。

さて、いま世界は平和の課題に直面しています。この課題によって持続可能性が損なわれているということをまずはお話します。

9月の国連総会にて未来への協定が採択され、SDGs、平和と安全保障、人権のこの3つが国連の柱だと強調されました。この3つは相互補完的であり、すべてが揃わなければ、どれも成り立ちません。また、SDGsの「5つのP」にPEACE（平和）があるように、平和がなければ持続可能な開発はあり得ません。そのことを我々は考えていく必要があると思っています。

戦争だけでなく、気候変動も大きな課題となっています。産業革命以前からの気温上昇を抑えることを目標としていますが、現時点で既に平均気温の上昇は進んでおり、今すべての主要な排出をすべて停めてもこの気温上昇は進んでいくことが分かってきています。

また、パンデミックの影響で健康の問題にもクローズアップされました。コロナ禍において、様々な活動が止まってしまうということも起こりました。

これらの課題は残念ながらまたやってくるのが予想されますが、その影響があってもSDGsが進捗するような状況を我々は考える必要があります。

日本の現状においては、SDGsの順位として2019年から15位から21位の間を上下しています。SDGsは経済・社会・環境の3つが合わさったものであることを考えると、経済規模が世界3位、4位の位置を動いている日本としては、社会や環境の持続可能性を改善していく必要があると考えられます。

SDGsの達成期限まで、残り5年となってきました。2030年までの目標達成には、大規模な変革（トランスフォーメーション）が必要です。その具体例として、ノルウェーにおける電気自動車普及の成功があります。SDGsはできた当初からトランスフォーメーションの重要性が述べられており、ノルウェーなどの事例から学び、日本でも官民が一体となってSDGsの達成に向けた取り組みを加速させていく必要があります。

これからSDGsはどうなっていくか。未来への協定が採択され、その中ではデジタル化と将来世代が鍵だといわれています。将来世代と今の世代とが対等に、一緒に物事を考えるということがこの協定で決まった大事な点です。

また、2027年ごろからSDGsのその先についての議論が始まります。今のSDGsの延長がいいのではないかと、あるいは国とか国際機関だけでなく、都市、それからビジネスが具体的にコミットするような仕組みを作ろう、そんな提案なども出てきています。

ぜひこういったことを、オープンに議論して、これからのSDGsの先のあり方を考えるということが、その先の世界を描いていくということに繋がるのではないかなと思っています。

02 パネルディスカッション 持続可能な未来を共に築く

パネルディスカッションでは、5人のパネリストによる世界、国、地域レベルのSDGsの現状や取組などの事例紹介とともに、持続可能な社会を実現するための取組をそれぞれの立場から話し合いました。

また、2025年に戦後80周年の節目を迎えるにあたっての平和への発信の取組、国内外の連携、地域連携のあり方などの講演が行われ、最後に、それぞれのパネリストから「2030年まで、私が一番大事にしたいSDGs活動」を発表しました。

パネリスト

玉城 デニー 沖縄県知事



沖縄県では、「沖縄らしいSDGs」の推進にあたり、県が県民とともにSDGsを推進する指針として、2021年に「沖縄県SDGs実施指針」を策定し、12の優先課題を設定しました。また、12の優先課題に対応する沖縄らしいSDGsの実現に向けた具体的なアクション等を2022年に「おきなわSDGsアクションプラン」としてとりまとめました。

アクションプランは、沖縄県だけでなく、県民、企業・団体、市町村などが沖縄らしいSDGsの実現に向け、「自分ごと」として、具体的なアクションを実施することが重要です。

私たちに何ができるのかを考え、実践し、SDGs達成に向け、一緒に取り組んでまいりましょう。

宮崎 桂 氏 独立行政法人国際協力機構 副理事長兼最高サステナビリティ責任者



JICAは世界中で様々な活動を行っており、橋などのインフラ建設や医療分野での人材育成、気候変動対策、災害時の緊急援助など、多岐にわたる協力を提供しています。

国内外に拠点を持ち、自治体など国内の様々な関係者と連携して海外の問題解決に取り組んでいます。

私たちのミッションは「人間の安全保障」であり、すべての人々が尊厳を持って生きる権利が保障される社会の実現を目指しています。そのために共創と革新が必要であり、様々なパートナーシップを通じてSDGsの達成を目指しています。

JICA沖縄においては、沖縄の特性（島嶼性、亜熱帯性、独自の歴史・社会包摂性、日系社会とのパートナーシップ）を活かし、各分野で協力・支援を行っています。

谷 浩 氏 内閣府地方創生推進事務局 参事官



SDGsは環境保全のほか、貧困、飢餓、保健、など多岐にわたる目標を掲げており、地方自治体の取組と重なる部分が多くありますので、地方創生SDGsはそれらの取組を支援しようと実施しています。

地域におけるSDGsの推進によって、人口減少・高齢化や過疎化、それに伴う人手不足や医療の問題の解決を目指しており、国としては未来都市制度に伴う自治体間の広域連携や官民連携プラットフォームによるのマッチング支援、地方創生SDGs宣言・登録・認証に伴う、地域で頑張る企業への投融資に関する支援等を行っています。

大阪万博においても、各地域でSDGsに取り組む自治体の展示も行いますので、ぜひ楽しみにしていただければと思います。

平良 次子 氏 対馬丸記念館 館長



私は、対馬丸記念館において、平和について考える事業を行っています。

平和について学ぶ意義は、異世代間の対話にあると思います。戦時中の出来事は自身に繋がっているということを若い世代が自覚することが、自分の命や生き方にもつながっていくと考えています。

戦争の話をする、「またか」と思う人もいらっしゃいますが、その時に起こった事実等を学ぶことで、他地域との繋がりや今の戦争について普遍的にとらえて考えることができるようになって感じています。

対馬丸以外にも戦時中に沈没させられた船舶は全国に多数あります。当記念館では、ほかの船舶にも犠牲者がいたことを伝えながら戦争ということを大きくとらえて紹介できる施設にできたらと考えています。

蟹江 憲史 氏 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 教授



パートナーシップの形成のためには、壁を越えて連携することが重要です。現在の状況を見ると、組織や会社間の壁が見えてしまっていますが、少し先の未来を見据えることで壁を越える可能性があります。

壁を超えるための一つ鍵として、若者を巻き込んでいくことがあります。例えばハワイでは若者を知事のアドバイザーにつけるなどの取組が行われています。このように外部の声を取り入れることは壁を取り払うことに繋がりますし、本日のような全国フォーラムやグローバルなネットワークもその一助となります。

ネットワーク形成によるパートナーシップで、外の声を活用して、中のことを変えていくことができればいいんじゃないかなと思います。

ファシリテーター

玉城 直美 氏 株式会社うなゐ沖縄



持続可能な未来をともに築くということで、子どもの貧困、そして平和の問題、さまざまな問題が沖縄には山積しています。ただ、このように全国各地、そして世界各地から沖縄は応援されているんだという、とても強い気持ちを持つことができました。

ここからまた一緒になって、県庁、沖縄県が旗振りをしながら、沖縄を支えてくださっている企業の皆様、個人の皆様、教育関係者、多くの方々に助けられながら、持続可能な未来を共に歩いていきたいと思っています。



セッション2 自然環境の保全と持続可能な観光の推進

14:00～16:00

国内外から、環境・観光のそれぞれの専門家や現場で活躍する方をお呼びし、自然環境の保全と観光の推進を両立させることができる、持続可能な観光を実現するための取組について考えるプログラムを実施しました。

01 基調講演1

ミツエ・ヴァーレイ 氏 ハワイ州観光局 日本支局 局長



今日はハワイの再生型観光についてお話しさせていただきます。

ハワイは、太平洋の中心に位置し、各島ごとに独自の自然や文化を持っています。そして観光産業はハワイ州のGDPの約17%を占め、6人に1人が観光産業に従事しており、観光はハワイにとってなくてはならない重要な産業となっています。

ハワイの観光戦略は、自治体や大学、ビジネスコミュニティなどのリーダーが協力して策定し、観光業界と共に承認手続きを経て発表されます。この戦略の柱は、自然保全、文化継承、コミュニティ・リレーション、そしてブランディングの4つの要素で構成されています。

ハワイはこれまで、「地球にやさしい旅を」というメッセージのもと、中長期的なレスポンシブルツーリズム（責任ある観光）の啓発活動を進めてきました。また、ハワイ版のSDGsと言われる「アロハプラスチャレンジ」は、パリ協定より前に制定され、再生可能エネルギーの普及や観光・環境教育など現在のSDGsに繋がる取組が行われてきました。

こうした背景のもと、ハワイではリジェネラティブツーリズム（再生型観光）が推進されています。これは、「失われたものをコミュニティと旅行者が共に取り戻していく」という考え方に基づいており、クワイモ畑の復元や養魚池の再生など、地元の文化や自然を守りながら観光客も参加できるプログラムが増えていきます。

これらは地元のコミュニティと協力して新しい体験の創出

を目指しており、観光客はツアーに参加することでハワイの文化や自然を深く理解し、地元のコミュニティと共に持続可能な観光の実現に貢献できるものとなっています。

また、コロナ禍の規制が緩和されるとアメリカ本土から多くの観光客がハワイに訪れ、ハワイ文化に理解の少ない観光客による様々な問題が発生しました。それを機にハワイのコミュニティでは、「ブランディングからマネジメント」「プロモーションからエデュケーション」へと移行する形で、再生型観光のプログラムが確立されました。さらに、島ごとに抱える問題点が異なるため、各島の自治体や観光業界、ビジネス、地域コミュニティが連携し、3年ごとに管理活動計画を策定しています。

ハワイ州観光局としても、ハワイを販売・発信する方々に正確な情報を伝えることが不可欠であると考えています。そのため、他の島嶼地域（バリ、サモア）との違いや、適切な写真を使っていたくように発信しています。また、島ごとのブランドガイドラインを作成し、統一されたイメージの発信を推進しています。

地元の声に耳を傾け、自然と文化の修復・保全を進めなければ、サステナブルを超えたツーリズム再生はできないため、州を挙げて、観光客のみならず業界内でも啓発活動を行っています。

自然の尊さを知る島に暮らす我々、ハワイと日本がリードすることによって世界を平和にできるとハワイアンの方々は信じているので、今後も協力し合いながら、この取り組みを推進していければと思っています。

02 基調講演2

土屋 誠 氏

琉球大学名誉教授



今日は「美しい島」をキーワードにして、SDGsと関連させたお話をさせていただきます。島は森、川、海が一体となった自然のシステムであり、私たちはこの島々から多くの恵みをいただてきました。これからはこの島に恩返しをする時期であると考えています。

私たちが島々からいただく多くの恵みは、観光資源としても利用されています。この美しい島々を未来に残すためにSDGsをどう理解すべきか、私の解釈をお話します。

SDGsの17の目標と169個のターゲット（詳しい目標）やグローバルな指標が島の環境保全とどのように関わっているかを説明します。以前に子どもたちと海岸線の清掃について話し合った際に、「このゴミはどこからくるのか」という素朴な疑問が出ました。このことについて考えることは沖縄や世界の海岸線がきれいになることに繋がります。

例えば、ゴール14は海の豊かさを守ることであり、ターゲット14-1は、海洋汚染を防ぐことが目標とされていますが、海の環境保全のためには、陸域の環境も守らなければなりません。沖縄の大きな問題は赤土であり、さまざまな場所でサトウキビの畑の周囲にベチバーを植えることで、赤土が川に流れ込まないようにしています。このような活動を子供のころから実施することで環境に関する関心は高まっていくことでしょう。

さらに、持続可能な漁業の実現もターゲット14-4の目標として定められています。サンゴ礁近辺で漁獲される生物の種類を見ると、近年漁獲高が減ってしまっているものがあります。そこで県では漁業調整規則が設けられ、捕って良い魚の時期、サイズなどが規制されています。

ゴール6のように、安全な水とトイレを世界中に提供する目標もあります。その中には水に関する生態系の回復に努

めるという6-6のターゲットがありますが、そのためには、「水」を取り巻く環境が川や森等の様々な場所、人間の営み、他の生態系と関わりがあることを理解する必要があります。

ゴール2は飢餓をゼロにという目標ですが、ターゲット2-4には生態系の維持と食料生産システムの確保が設定されています。県内には児童にコメ作りを体験させる授業を提供している小学校があります。これらの活動が将来的な農業への理解につながると考えます。

ゴール15では陸域生態系の保護が掲げられており、ターゲットの中に、絶滅危惧種の保護・絶滅防止対策があります。琉球列島の島々について、このターゲットの指標であるレッドリスト指数を計算したところ、比較的良い数値がでました。今後もこれを維持する努力をすべきです。

ゴール12のターゲット12-5では廃棄物発生の削減が述べられています。ここで最初のごみ拾いの話題に繋がります。SDGsの各目標はいろいろな形で繋がっていることが理解いただけるのではないかと思います。

美しい島々を未来に残すためにはSDGsを勉強しましょう、そこにはヒントがいっぱいあります。島の恵みを享受し、その恩返しをする方法こそがSDGsの活動を続けることです。

多くの人が島の自然から恵みをいただきながら楽しく過ごすことができる美しい島々を将来に残していく方法を一緒に考えていきましょう。

03 パネルディスカッション 自然の回復・再生と持続可能な観光

パネルディスカッションでは、観光業と環境保全の関係についてそれぞれの立場からの取組が紹介されました。また、ハワイにおける再生型観光への合意プロセス、観光業の立場からのマネジメントやコミュニティと観光の関わり、暮らしの土台でもある島の自然をどう守るかなどについて意見が交わされました。

パネリスト

下地 芳郎 氏 一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 会長



我々沖縄観光コンベンションビューローは、県と両輪になって情報発信や観光客受け入れを行っている組織ですが、これまで、県民にするメッセージ発信は積極的に行ってこなかったため、まずは住民へのメッセージを考え、広く県民に知っていただけるようにする必要があったと感じました。

我々は「エシカルトラベルオキナワ」というキーワードでこれまで取り組んできました。ここには、「観光客と事業者と県民が共に」という要素も盛り込んでおり、沖縄を大切に作る旅という考えのもと、みんなで取り組んでいこうと発信しています。

今年のジャパンツーリズムアワードでは、ツーリズム特別賞を受賞しました。これはやみくもにコンテンツを広げるのではなく、質の高い観光地を目指しなさいというメッセージだと受け取っています。今日はフォーラムを通じ、学びを得たいと思っています。

徳岡 春美 氏 一般財団法人西表財団 事務局長



私は西表財団にて環境保全・環境教育、文化継承、エコツーリズムの推進に取り組んでおります。

西表島は自然資源の循環や地域産業の保護に関する考えが強くあり、自然体験フィールド現場でも、暗黙のルールというものがありません。

しかし、観光産業が拡大し、ガイド事業者が増えたため、自主ルールだけでの保全が難しくなりました。そこで、竹富町でのガイド免許制度条例の制定、観光地と保護地のゾーニング、観光による自然への影響のモニタリングなど、様々な取り組みにより観光を管理する取組が進められてきました。我々西表財団はこれら取組について、実際の現場で運用する組織として立ち上がり、西表の自然と伝統文化を守っていくことをミッションとしています。

ミツエ・ヴァーレイ 氏 ハワイ州観光局 日本支局 局長



ハワイでは、観光による住民への影響や問題の発生を抑えるため、様々な取り組みを行っています。

例えば、州レベルでいうと民泊の規制を強化しています。また、より小規模な取り組みとしては、ハワイの歴史・文化に関する教育プログラムの実施や、それに基づいたガイドプログラムの作成等が挙げられます。

ハワイは島ごとに文化や価値観が異なるため、各島が来てほしい観光客像を発信しています。これらの施策は観光業界だけでなく、あらゆるコミュニティから偏りなくリーダーが集まり、ディスカッションを重ねて島ごとのアクションプランを作成することで進められています。

「プロモーションからエデュケーションへ」という流れについてもお話しましたが、沖縄でも同様の動きが起こるといいのかなと思います。

土屋 誠 氏

琉球大学名誉教授



私の経験でのお話ですが、ハワイに行った際、海に入る前に、教育ビデオを見る機会がありましたが、そこには琉球大学の大学院を出た学生やハワイ大学の卒業生が関わっていました。また、パナマでは自然ガイドの方がカリフォルニア大学でドクターをとった方で、自然のことも、地域との関わりについても知識を持っている方でした。

このように、観光の現場で起こったことが環境全体でみるとどうだとか、自分たちは現在どのような立ち位置にあるのかなど、専門的知識をもってそれらを判断できる方が実際の現場にいることが重要で、そういった方々と連携することによって、環境に対するモニタリングやコントロールができていくのではないかと思います。

ファシリテーター

石垣 綾音 氏

まちづくりファシリテーター



本セッションのテーマは自然環境の保全と持続可能な観光の推進ということで、その中でも沖縄県では特に取り組むべき課題として、比率の大きい観光産業の中での持続可能性は欠かせないものであり、全国フォーラムにおいてこれを語ることが他の地域においても有益なのではないかということでこのようなテーマ設定となっています。

皆様のお話から、一つ一つの現場の積み上げがSDGSの達成に繋がっていった、そのために何をすべきかという現場とマネジメントのヒントを今日はたくさんいただきました。その上で、私たちが自然に生かされて、それを恩返しをすることによって、それが観光にもなり、また平和にもつながっていくというのを再確認したなと思います。



セッション3 次世代からのメッセージ

16:05~16:45

01 高校生によるメッセージ発表

沖縄県内高校生



皆さん、こんにちは。本日はこのような素晴らしいフォーラムを開催してくださり、そして私たち学生が次世代としてSDGsや沖縄の未来について考え、メッセージを発表する機会をいただき、とても嬉しく思います。今回のフォーラムでは、SDGs達成に向けてたくさんの方が議論や取り組みを行っていることを知ることができました。

私たちは、今日のメッセージ発表に向けて、ワークショップを通じて準備を進めてきました。

ワークショップでは、SDGsについて学び、それらを沖縄の課題や私たちの日常生活と結びつけて考えました。また、グループで議論を重ね、意見を出し合いながら、次世代からのメッセージとして形にしていきました。

スクリーンに流れているスライドショーは、私たちのワークショップの様子です。ワークショップでは、まずSDGsについて自分たちで調査を行いました。SDGsの作成経緯や、前身のMDGsなど、初めて知ることばかりでした。

また、現在のSDGs達成レポートを読み、まだまだ世界ではSDGsを達成できない現状があることに驚き、より一層私たちには何ができるのか、きちんと向き合わなければならないと感じました。

今回のフォーラムで登壇された蟹江先生の学生さんと交流を行う機会もありました。

この交流は、自分の好きなことの裏には、苦しんでいる人たちがいるかもしれないこと、自分の好きなものの裏に労働問

題があることなどについて考えるきっかけになり、自分の日常との繋がりにはっとしました。

交流を通じて、SDGsをみんなのものにするため、誰かの取り組みで終わらせないために、共感という重要なキーワードもいただくことができました。

共感がないと自分ごとになっていきません。自分ごとになると行動につながります。行動に繋がると少しずつ世界は良くなっていきます。そのために共感が必要です。共感することで、世代を超えて同じ未来像を描くことができます。だから、若い世代が考えていることを発信して、上の世代に共感してもらうのが大切だと考えます。

そして、自分たちが大人になった時にも、若い世代の考えを取り入れていくことが大事だと思いました。そういう大人に私たちもなっていきたいと思います。

【ワークショップ実施日】

第1回 令和6年9月29日(日) 13:00~16:30

↳ 場所：沖縄県立図書館 3F ホール

第2回 令和6年10月27日(日) 13:00~16:00

↳ 場所：沖縄県立図書館 4F 交流ルーム

第3回 令和6年12月20日(金) 13:00~17:00

↳ 場所：市町村自治会館会議室

沖縄県内高校生 発表資料



沖縄県内高校生 ブース展示



02 大学生による宣言発表（世界人権宣言）

沖縄キリスト教学院大学



世界人権宣言 群読

沖縄キリスト教学院大学の学生が約2ヶ月半にわたって世界人権宣言の翻訳と朗読練習を重ね、SDGs全国フォーラムの舞台で群読パフォーマンスを披露しました。日本語、英語、そしてうちなーぐちで世界人権宣言を読み上げることで、より多くの人々の心へ向けたメッセージとしました。

世界人権宣言とSDGsは、「一人ひとりを大切にする」社会のあり方を目指しています。群読パフォーマンスで「ちゅいなーちゅいなー（一人ひとり）」を繰り返し唱えることで、「一人も取り残さない、みんなたいせつ」というメッセージを込めました。また、群読の中に育ちゆく生命への祈りである「ねさせ歌」（子守歌）を合わせることで、持続可能な世界への祈りと願いの表現を目指しました。



閉会セレモニー 次期開催地の知事挨拶

16:50~17:00

吉村 洋文 氏 大阪府知事



皆さん、こんにちは。大阪府知事の吉村洋文です。本日はSDGs全国フォーラム2024沖縄が盛大に開催されましたことを誠におめでとうございます。この全国フォーラム、沖縄から来年、私も大阪が受け継ぐことになります。来年の全国フォーラムの開催都市を代表してご挨拶を申し上げます。

本日の沖縄での全国フォーラムは、国内外のSDGsの方向とポストSDGsに向けて、自然環境の保全や持続可能な観光の推進をメインテーマとして、国内外でご活躍の幅広い有識者をお招きして開催された素晴らしい大会だったと思います。

SDGsの目標年次である2030年まで、残すところあと6年となりました。今後のSDGsの方向性のみならず、その先のポストSDGsを見据えた取り組みは、世界中で考えるべき大変重要なテーマです。また現在、コロナ前を上回る多くの観光客が日本にお越しいただいています。そういった中で、持続可能な観光や経済と環境の両立は、日本全体で取り組むべき課題です。豊かな自然を抱える沖縄で議論するにふさわしいテーマだと思っています。

フォーラム開催に携わる関係者の皆さん、そしてご参加の皆さんに敬意を表しますとともに、本日の議論の成果が国内外に発信されることを期待しています。

そして、いよいよ大阪関西万博まであと4ヶ月を切りました。SDGs全国フォーラム2024沖縄の開場にも公式キャラクター、ミyakumiyakが参加して万博をPRしてくれています。

誰一人取り残さないというSDGsの目指す姿は、「いのち

輝く未来社会」をめざすという大阪万博のテーマに合致します。大阪は万博開催都市として、世界とともにSDGsの達成に向けて貢献をしていく「SDGs先進とし」の実現に向けて取り組んでいます。

大阪・関西から世界を引っ張っていくという強い思いの下で来年9月、万博会場内でSDGs全国フォーラムを開催します。

沖縄からバトンを受け継ぎ、日本全国や海外のステークホルダーと未来を創る新しいアイデアを共有し、大阪らしいSDGsの取組について発信していきたいと考えています。万博、そしてSDGs全国フォーラムの開場内で皆様とお会いできることを楽しみにしています。

最後になりますが、皆さんのご健康、ご多幸を祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。来年、大阪でお会いしましょう。



出展ブース

10:00～17:00

フォーラム会場内において、県内企業・団体や市町村等のSDGs達成に向けた取り組み事例を展示するコーナーを設置し、県内でのSDGs取組の広がりや各地域の特色ある取組を紹介したほか、出展者と参加者、出展者同士の繋がりのかきかけを作り、県内におけるSDGsを軸としたパートナーシップ形成を図りました。

出展企業・団体一覧

1 恩納村役場

SDGs未来都市に係る「恩納村サングの村宣言」を中心とした、取り組みの紹介

2 株式会社大成ホーム

(株)大成ホームのSDGs取組と、SDGsアクションプランの紹介

3 日本トランスオーシャン航空株式会社

美ら島沖縄を未来へつなぐためにJTAが取り組んでいるSDGs活動「結∞ACTION」の紹介。

4 国際連合地域開発センター（UNCRD）・豊田市

2025国際首長フォーラムの紹介と、SDGsに関するモニタリング研究会及びスマートシティに関する取組、豊田市のSDGs取組紹介

5 国立大学法人 琉球大学

本学のSDGs研究プロジェクトを中心に、本学を代表するSDGsの取組を紹介。（琉球大学SDGs推進本部、陸上養殖プロジェクト、FoodXの取組、ZEHなど）

6 沖縄県ユネスコ協会

書き損じはがきキャンペーン、SDGsパスポートの紹介。その他ポスター展示、映像展示、小型物品展示、写真・パンフレットの設置

7 沖縄ツーリスト株式会社

離島ビーチクリーンツアー、健康経営取組の紹介。その他ポスター展示、映像展示、小型物品展示、写真・パンフレットの設置

8 一般社団法人おきなわ国際協力プラットフォーム

沖縄県内のさまざまな団体・個人のパートナーシップによる沖縄らしいSDGsに資する活動を推進する拠点として、JICA沖縄センター内に設置されたプラットフォームの紹介

9 株式会社琉球新報社

県内の社会課題解決に向けたコミュニティプラットフォーム「OKINAWA SDGs プロジェクト」の紹介と、その他琉球新報社で取り組むサステナビリティ活動の紹介

10 おきなわSDGsプラットフォーム

沖縄県や県民、企業・団体がSDGsの情報を発信する「おきなわSDGsプラットフォーム」の紹介

11 高校生ワークショップ

セッション3 次世代メッセージを発表する高校生による、ワークショップの内容についての紹介

12 SDGsフェス（内閣府）

地方自治体による地方創生SDGsに係る取組を、2025大阪・関西万博の場での紹介に先立ち、地方創生SDGsに係る取組の一例を紹介。

13 独立行政法人 国際協力機構（JICA）沖縄センター

SDGsに貢献するJICAの国際協力の概要と沖縄の特色を生かした取組事例についての紹介

14 一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー

OCVBのエシカルトラベル等のSDGs取組事例の紹介

15 大阪府

大阪府が11月に実施したSDGs Forumの紹介、府内SDGs未来都市3市（豊中市・阪南市・枚方市）の紹介、万博のPR等

16 一般社団法人ドアレスアートオキナワ

当団体所属の障がい者アーティスト等の作品展示、団体活動事例紹介、県内企業との取り組み事例など

17 株式会社ODAL かりゆしレンタルAnne

大量生産・大量消費・大量廃棄という負の連鎖を断ち切るための事業紹介、リサイクル素材を使用したかりゆしウェアの展示等

18 イオン琉球株式会社

イオン琉球のSDGsの取り組み（子どもの貧困対策、自然環境の保護、伝統文化の維持保存）の映像の放映と説明

19 株式会社おきなわフィナンシャルグループ

金融リテラシー向上に向けた取組（金融経済教育シンポジウム、金融経済出前講座）の紹介

20 株式会社478COMPANY

地域社会への貢献とSDGs活動を結びつけた新しい次世代農業モデルの紹介

21 沖縄JTB株式会社

当社は、「沖縄と共に育とう」をスローガンに掲げ、持続可能な発展を目指して取り組んでいます。当社が注力する「環境」「社会」「経済」の3つの分野におけるサステナビリティへの取り組み事例をご紹介します。

22 沖縄県労働金庫

2024 沖縄ろうきん 福祉金融機関の役割について（SDGs達成への貢献、生活応援運動、地域社会の活性化）

23 株式会社e-コンサルティング沖縄

空調設備のノンフロン化に関する取組についての紹介

24 田中鉄工株式会社

使用済み食用油のリサイクルによる、ゼロカーボンシティとローカルSDG実現に向けた取組

25 沖縄県交流推進課

ウチナーネットワーク、世界のウチナーンチュに関する取組の紹介

26 SDGs QUEST みらい甲子園

高校生向けに開催する、地域や世界の課題に挑戦しアイデアを形にするためのSDGsアクションアイデアコンテスト“みらい甲子園”の紹介

27 SHIMA DENIM WORKS（Curelabo株式会社）

沖縄県産バガスをはじめとする未利用資源のアップサイクル素材や製品の紹介

28 沖縄県立芸術大学・漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会

漫湖をめぐるワイズユースの取り組み紹介とマングローブ稚樹およびマングローブ染め作品の展示

29 株式会社フードリボン

世界に誇るフードリボンの繊維、フードロス削減＋石油プラ減青果の鮮度保持包材

30 一般社団法人 琉球フィルハーモニック

琉球フィルによるサステナビリティ活動「音楽と共にまちと響きあう」についての紹介

31 株式会社琉球銀行

ZEP Ryukyu (Ryukyu net ZERO Energy Partnership) の紹介

32 一般社団法人タコライスラバース

県内の飲食店を対象に実施している、顧客と子どもたちを繋ぐ「みらいチケット」普及活動の紹介

